

動画解説まとめ 23 / 動画・音楽制作

動画生成AIを、発信の素材づくりへ生かす方法

文字を含む動画やキャラクター動画の実演を通じて、動画生成AIの使いどころを整理。字幕の崩れや絵柄の変化を見極め、SNSの背景素材などへ生かす考え方をまとめました。

この動画の要点

動画内でGoogleの新しい動画生成AIとして紹介されるOmniを試し、文字や字幕、キャラクターの動きを確認する内容です。画像を添えて動画を作る操作と、完成映像のどこを見るかを整理しました。実演では文字や絵柄が変わる場面もあり、完全な動画を一度で作る方法としては扱っていません。Instagramなどで使う短い背景素材を例に、自分の発信でどの作業を減らせるかを考えることが中心です。

01 文字が見えることと、動いても文字が崩れないことを分けて見る。

02 画像、画面の向き、動き、字幕などを伝えて試す。

03 字幕の誤字、発話、キャラクターの変化を完成後に確認する。

04 短い背景素材など、現在の仕事の一部分から活用する。

05 新機能の話題性より、自分の作業をどう変えられるかを見る。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【動画生成AIで稼ごう！】Googleの新AI"Omni"登場！進化し続ける動画生成AIで個人が稼ぐ方法を超初心者向け徹底解説！【AI副業】

<https://www.youtube.com/watch?v=cKxmWAsFsQ4>

今回の着眼点は、動く映像の中の文字

動画の該当箇所 2:00 / タップして開く

あべさんが注目しているのは、動画の中にある文字が、動きを伴っても崩れにくくなったと感じた点です。比較として、自分のチャンネルの従来のエンディングを見せています。一看すると文字を含む映像が作れているように見えますが、実際には元の画像の文字を動かさないようにして作っていたと説明しています。

服に文字が書かれた本人の写真を動画にすると、従来の試行ではその文字が崩れて使いにくかったと話しています。そのため、本人の写真をそのまま動かす代わりに、キャラクターを使う工夫をしていました。何が改善したかを比べるには、動画全体の迫力だけでなく、以前うまくできなかった箇所を見る必要があります。

新しい実演でも、一部に崩れは残っています。あべさんは、大きく動かさなければ比較的保たれていると評価しています。どんな文字でも、どんな動きでも必ず正確に出るという説明ではありません。自分の素材と必要な動きで試すことが前提になります。

- ・ 静止している文字か、動いている文字かを区別する。
- ・ 服の文字や背景の文字など、使いたい場面に近い部分を見る。
- ・ 映像の一部が崩れた場合も、使える尺があるかを確認する。

画像を添えて、向きと動きを指定する

動画の該当箇所 6:00 / タップして開く

操作の実演ではGeminiを開き、動画を作成する機能へ進んでいます。テンプレートを選ぶ方法と、文章で作りたい内容を入力する方法があります。画像を動画にしたい場合は、元になる画像を添付します。動画ではチャンネルで使っているキャラクターの画像を渡しています。

続いて縦向きか横向きかを選び、今回は縦向きで制作しています。依頼は、キャラクターが楽しそうにしている動画を作ってほしいという短い内容です。最初から細かな演出をすべて決めるのではなく、まず作ってみて、どのような動きや発話になるかを見ています。

出来上がった映像では、キャラクターが英語で話し、絵柄も元の画像から変わっています。本人は動きや発話ができていることを評価しつつ、キャラクターそのものと描き方の変化を見ています。生成されたものが希望に近いかは、元画像との比較も含めて判断します。

- ・ 動画作成の機能を開く。
- ・ 元になるキャラクター画像を添える。
- ・ 使いたい画面の向きを選ぶ。
- ・ どのような様子の動画にしたいかを伝える。
- ・ 完成映像を再生し、動き、声、絵柄を確認する。

字幕を追加するときは、文字を一つずつ確認する

動画の該当箇所 8:01 / タップして開く

次の実演では、同じキャラクターが楽しそうにしている動画に、字幕とエフェクトを付けるよう依頼しています。表示する文字として「チャンネル登録お願いします」を指定しています。どんな場面にしたいかという希望に、入れたい言葉を追加した形です。

生成結果には字幕が付きましたが、「お願いします」の一部が抜けたような文字になっていました。また、キャラクターはより現実の人に近い絵柄へ変わっています。字幕が出せるという機能の確認と、指定した言葉を正確に表示できたかという確認は別です。

動画の中では、日本語で話す例や番組風の演出も見せています。ただし、映像として面白いことと、商品や発信にそのまま使えることは同じではありません。人名やサービス名、登録を促す言葉など、視聴者へ正確に伝えたい部分ほど、出来上がった映像を見て直す判断が必要になります。

- ・ 指定した文字がすべて残っているかを見る。
- ・ 発話と字幕の内容を確認する。
- ・ キャラクターの姿や絵柄が用途に合うかを見る。
- ・ 表示できたことだけで完成と判断しない。

成功例だけでなく、失敗から得意不得意を見る

動画の該当箇所 9:00 / タップして開く

撮影中は、短い動画を二つ作った後に利用上限へ達しています。ほかの実演映像は別のタイミングで用意しており、画面の操作を見せながら次々にすべて生成できたという構成ではありません。実際に試せる回数や待ち時間は、その時点の利用条件に左右されます。

あべさんは、プロンプトと生成結果を見比べ、どんなことができて、どんなところで失敗するかをつかんでほしいと話しています。うまくいった映像だけでは、同じ条件で試したときの難しさが見えません。失敗した結果も含めて見るのが、用途を考える材料になります。

動画中には多数の生成例を別の特典としてまとめる計画も出てきますが、この資料はその動画集ではなく、実演で分かった使いどころのまとめです。まず自分が必要とする素材を明確にし、出来上がったもののどこが使い、どこが合わなかったかを確認する視点を持てます。

- ・ 指示文と完成映像をセットで見る。
- ・ 崩れた文字や変わった絵柄も、判断材料にする。
- ・ 利用上限や待ち時間を含めて、制作に使えるか考える。

実用例は、SNS動画の短い背景素材

動画の該当箇所 11:01 / タップして開く

あべさんは、自分のInstagramの投稿を例に使い道を考えています。字幕やプロンプトの説明が中心の投稿では、その後ろに流れる短い背景映像を、生成動画に置き換えられる可能性があると話しています。これまではスタジオなどで撮った映像を切り貼りしていた部分です。

背景に使うのは二、三秒程度の短い素材なので、長い解説動画を丸ごと生成するよりも、崩れない箇所を使いやすいという考え方です。良い映像が出るまで再試行が必要なことは認めつつ、以前より少ない回数で使える素材が出るのではないかと評価しています。具体的な成功率の検証結果ではなく、本人の使用感です。

撮影全体が不要になると確定したわけではありません。字幕、説明内容、映像の選び方など、発信する側の仕事は残っています。現在の制作工程の中で、移動や撮影などの手間がかかる一部分を置き換える候補として捉えると、試す目的が明確になります。

- ・すでに作っている投稿を一つ選ぶ。
- ・映像が説明の主役なのか、背景素材なのかを分ける。
- ・短い素材で足りる部分を、生成動画で試す。
- ・使える映像が得られたかと、減った手間の両方を見る。

新しいAIを、自分の発信の改善へつなげる

動画の該当箇所 17:00 / タップして開く

あべさんは、新しい動画が作れるという驚きだけでなく、自分の仕事でどこに使えるかを考えるよう勧めています。今回の機能も、長い解説動画を一度で完成させられるほどではなく、背景や一部の字幕など、実用の範囲が少しずつ広がったものとして説明しています。

今後、動画制作がさらに簡単になるという見通しも話していますが、それは将来の予想です。現在の実演でできたこととは分けて受け取る必要があります。すでに発信や副業を試していれば、新機能を見たときに、自分のどの作業を変えられるかという具体的な問いを持てます。

本人の例では、背景素材づくりの手間が減れば、同じ発信でも制作時間を減らせると考えています。これは新機能だけで新しい収益が自動的に生まれるという話ではありません。発信する内容や届ける相手があり、その活動の一部を改善することが、この動画で示される活用の方針です。

- ・今行っている発信や制作に当てはめて考える。
- ・何を減らし、何を良くしたいかを決める。
- ・現時点で使えた結果と、将来への期待を区別する。

実践の進め方

01 使いたい場面を決める

動画の話を実践順に整理しています。SNSの短い背景など、現在の制作で置き換えたい部分を選びます。

動画 12:01

02 画像と希望を渡して生成する

元画像を添え、縦横の向き、動き、必要な字幕などを伝えます。

動画 6:00

03 完成映像を見比べる

文字の欠け、発話、絵柄の変化、動きの崩れを確認し、使えるか判断します。

動画 8:01

04 制作の手間がどう変わったかを見る

生成できたことに加え、従来の撮影や素材づくりのどの部分を置き換えられたかを考えます。

動画 20:01

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部の活用例】この資料を根拠に、私の発信で動画生成AIを試す場所を考えてください。記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めてください。現在作っている投稿、必要な素材、撮影で手間がかかる部分を聞き、最初に試す短い映像と確認項目を整理してください。動画にない成功率や収益を創作せず、文字や絵柄の変化も評価に含めてください。

資料について

- ・ 動画内の実演と、あべさんの活用の考え方を整理した資料です。
- ・ モデル名、機能、利用上限は撮影時点の紹介に基づきます。
- ・ 制作時間の短縮や将来の進化は本人の見通しを含み、成果を保証するものではありません。